

経営情報研究

Vol.12 No.1

研究論文

取引銀行数とリレーションシップ・バンキング^{*}

加 納 正 二

An Empirical Analysis of the Number of Bank Relationships

Masaji KANO

【要 約】本稿の目的は、非上場企業の取引銀行数に注目し、リレーションシップ数の多寡がリレーションシップ・バンキングにどのような影響を与えるかを47都道府県別の非上場企業データを用いた実証分析で明らかにすることにある。

一行取引の企業はメインバンクを継続する割合（メインバンク固定率）が高い。また取引銀行数が少ない地域ほど貸出金利が高い傾向にあり、ホールド・アップ問題が懸念される。

キーワード：リレーションシップ・バンキング、メインバンク、貸出金利、中小企業、
ホールド・アップ問題

^{*} 本稿の作成にあたって、内田浩史氏並びに本誌匿名レフェリーから貴重なコメントを頂いた。記して感謝したい。

1. はじめに

小企業に対する銀行の貸出のテクノロジーは、企業と銀行の継続的關係に基づくリレーションシップ・バンキングと財務諸表融資、資産担保融資やクレジット・スコアリングに基づくトランザクション・レンディングの2種類に大別されるが、リレーションシップ・バンキングのもとでは、銀行は企業や企業オーナーや地域コミュニティと接触して、情報を収集し、貸出のアベイラビリティや貸出条件の決定に情報を活用している（Berger and Udell [2001]）。

Boot [2000] は、リレーションシップ・バンキングとは、顧客の固有な情報を独占的に入手するために投資を行い、同一顧客との長期継続的で複合的な相互作用を通じて、その収益性について評価することである、と定義している。

情報の非対称性のもとでの金融仲介に伴うエージェンシー・コストを削減するために、リレーションシップ・バンキングは有効な手段と考えられ、長期継続的な関係は銀行に企業の内部情報を収集させ、融資契約において弾力的な再交渉を可能にする（Boot [2000] , Rajan [1998]）。また、貸出のアベイラビリティや貸出金利・担保などの貸出条件にリレーションシップは重要な役割を果たすと考えられている（Cole [1998] , Berger and Udell [1995]）。

リレーションシップの要素は、時間、範囲、数などと考えられる。時間は顧客と銀行の取引の期間（duration）で示される（Wood [1975]）。範囲は、銀行から顧客に提供されるサービスの幅（scope）である（Hodgman [1963]）。リレーションシップの数は取引銀行の数で示される（Ongena and Smith [2000b]）と考えられている。

本稿の目的は、わが国47都道府県の非上場企業データを用いて、リレーションシップの数、すなわち取引銀行の数をもとにわが国におけるリレーションシップ・バンキングの現状についてファクト・ファインディングを行うことにある。わが国においてはリレーションシップ・バンキングの実証分析は従来あまり行われておらず、リレーションシップ・バンキングの benefit や cost について明確にされていない。本稿では、特にリレーションシップ・バンキングの cost の一つとされるホールド・アップ問題¹が、わが国の一部地域で発生している可能性を示唆したい。

わが国でリレーションシップ・バンキングについて考える場合、メインバンクという観点から外れることはできないであろう。²ここではリレーションシップの duration としてメインバンクが変更されずに10年間継続された割合（メインバンク固定率と呼ぶことにする）を都道府県別に求め、また銀行が独占的地位を利用して不当な価格を設定するホールド・アップ問題の検証のため、地域別の貸出金利にも着目する。

第2節では、本分析で用いた非上場企業データの説明を行い、第3節では、リレーションの

¹ 銀行が情報入手に関する独占的地位を利用して、不当な価格設定をしたり、銀行が新規融資に応じることができない場合、企業が同条件で他の銀行での取引機会を逸するなどの問題をさす。

² Ongena and Smith [2000a]では、通常の預金貸出の銀行業務および付随する金融サービスを越えて拡張されるリレーションシップを Extended Bank Relationships として、日本のメインバンク及びドイツのハウスバンクを例に挙げている。

数についてヨーロッパの例と我が国のリレーションシップの数を都道府県別に調査し比較する。第4節では、我が国のリレーションシップの数とメインバンク固定率について考える。第5節では、我が国のリレーションシップの数と貸出金利について考える。第6節は結びにあてられる。

2. データ

対象とする非上場企業として、1990年版さらに2000年版の『帝国データバンク会社年鑑』に都道府県別に記載された企業について10年間追跡調査可能な47都道府県の非上場企業の財務データを用いる。

上場企業は全国的な金融市場で資金調達・運用しているが、非上場企業のための直接金融市場はいまだ十分には開発されていない現段階においては、非上場企業のリレーションシップ・バンキングは地域の特性に大きく影響していると考えられ、地域の特性とリレーションシップ・バンキングの間に何らかの関係があり、相互に影響を及ぼしている可能性があると推測される。

本稿ではホールド・アップ問題の可能性を示唆するために、地域特性として貸出金利の高低に着目する。ここでは、低金利県として、愛知・京都・岐阜の3県を選び、高金利県として、宮崎・高知・青森の3県を選び、この6県については特に注目し比較分析の対象とする。³

愛知県以外の5県については全数調査を行い、愛知県は1990、2000年に共通して掲載されている非上場企業の中から、ランダム・サンプリングを行い、1,000社を抽出し、データに不備がないものをサンプルとして用いた。尚、信用金庫法、および信用組合法に基づき、資本金・従業員について会員資格が定められているが、その上限を超え、信金・信組から他の業態へメインバンクを変更した非上場企業は対象サンプルに含まれていない。

表1は1990年および2000年時点の6県のサンプル非上場企業の記述統計量を示したものである。『帝国データバンク会社年鑑』には、非上場企業の取引銀行が主力以下10行までが記載されているが、筆頭に記載される主力銀行をメインバンクと定義する。⁴ 都銀と上場企業のメインバンク関係を考える場合には、株式持ち合いの状況、役員派遣数等も考慮に入れる必要があるかもしれないが、銀行が非上場企業の株式を所有する割合は非常に低く、本サンプルの2.1%である。メインバンクのみに限れば、1.9%とさらに少なく、本稿では株式持ち合いをメ

³ Kano and Tsutsui[2003]の分析結果を用いた。1997年3月期の全国信用金庫の貸出金利に基づき、47都道府県の貸出金利に順位をつけた。金利の高い上位3県は宮崎、高知、青森であり、低金利上位3県は愛知、京都、岐阜である。

⁴ 帝国データバンクでは貸出額等を中心として、実態にあわせて筆頭銀行を定めており、必ずしも融資シェア最大行という意味ではなく、また無借金経営の企業も含まれている。1980年版、1990年版にはメインバンクに印が記載され筆頭に記載されていたが、2000年版にはこの表示はなく、筆頭に記載された銀行をメインバンクとして用いた。尚、印が複数記載されている所謂、並行メイン、複数メインの場合も筆頭の銀行のみをメインバンクとした。

加 納 正 二

インバンクの要件として考慮しない。また、非上場企業はそれほど多くの人員を金融機関から受け入れておらず、この点も考慮しない。

表 1 記述統計量

1990 年

	6 県全体			低金利 3 県			高金利 3 県		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
資本金（万円）	6,094	100	430,080	6,303	150	430,080	5,383	100	80,000
売上（百万円）	4,450	81	157,946	4,565	262	150,641	4,058	81	157,946
従 業 員 数	107	1	2,401	108	3	2,100	104	1	2,401
操 業 年 数	43	16	97	43	16	97	41	17	85
サ ン プ ル 数	2488			1923			565		

2000 年

	6 県全体			低金利 3 県			高金利 3 県		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
資本金（万円）	7,852	190	468,208	8,112	190	468,208	6,966	300	156,800
売上（百万円）	5,148	203	283,080	5,116	203	150,635	5,257	250	283,080
従 業 員 数	106	1	2,300	104	4	2,300	110	1	2,208
操 業 年 数	43	16	97	43	16	97	41	17	85
サ ン プ ル 数	2488			1923			565		

非上場企業のメインバンクの業態別内訳は、2000年時点では、6 県全体で見た場合、地方銀行が 44.9 % と半数近くを占めている。しかし、低金利 3 県では、地方銀行 34.9 %、都銀 42.1 % であるのに対して、高金利 3 県では、地方銀行 82.3 %、都銀 2.6 % であり、地方銀行をメインバンクにする非上場企業の割合がかなり大きい。これは両地域の都銀、地方銀行の店舗数の差異によるものと思われる。

取引銀行数とリレーションシップ・バンキング

3. リレーションシップの数

本節では、ヨーロッパと日本のリレーションシップの数について比較してみよう。

3 - 1 ヨーロッパのリレーションシップの数

リレーションシップの数として、ヨーロッパの取引銀行の数について考えてみよう。Ongena and Smith [2000b] では、ヨーロッパ20カ国の 1,079 社の調査で、取引銀行数を調査している。1,079社の平均取引銀行数は 5.6 行であり、最高の取引銀行数はイタリアの 70 行である。平均の取引銀行数で最も多いのはイタリアの 15.2 行、最も少ないのはノルウェーの 2.3 行である。サンプル全体で見た場合、1 行のみと取引している企業は 14.5 %、2 行取引は 18.8 %、3 ~ 7 行取引は 47.0 % と最も多い。8 行以上取引は 19.7 % である。対照的な国としてイタリアとスイスが挙げられる。イタリアでは 1 行取引は 3.1 %、8 行以上の取引は 70.3 % であるのに対して、スイスの場合はおのおの、41.7 %、8.3 % である。国によって平均取引銀行数には差があり、イギリス、ノルウェー、スウェーデンは 2 ~ 3 行であるが、イタリア、ポルトガル、フランス、ベルギーは 10 行以上の取引がある（表 2 参照）。

表 2 ヨーロッパ国別取引銀行数

	平均取引銀行数	取引銀行数の割合 %			
		n=1	n=2	n=3to7	n>7
イタリア	15.2	3.1	3.1	23.4	70.3
ポルトガル	11.5	5.1	2.6	30.8	61.5
フランス	11.3	4.2	4.2	33.3	58.3
ベルギー	11.1	0.0	25.0	25.0	50.0
スペイン	9.7	1.5	7.4	44.1	47.1
ドイツ	8.1	15.9	7.9	39.7	36.5
スイス	3.6	41.7	19.4	30.6	8.3
英 国	2.9	23.2	27.5	45.7	3.6
スウェーデン	2.5	22.9	33.3	43.8	0.0
ノルウェー	2.3	26.8	34.1	39.0	0.0
22ヶ国平均	5.6	14.5	18.8	47.0	19.7

出所：Ongena and Smith [2000b] p.30 の TABLE1 より一部の国を引用

Ongena and Smith [2000b] は、これらの調査から次の 3 つのことを指摘している。調査対象の国全てで複数の銀行取引は一般的である。大企業ほど多くの銀行と取引する傾向がある（Houston and James [1996] でも指摘されている）。国によっては一行取引や少数の銀行のみと取引するのが一般的ということもあるが、その他の国では、このような傾向は例外的である。

3 - 2 日本のリレーションシップの数

翻ってわが国のリレーションシップの数について考えてみよう。Horiuchi [1994] の1992年の調査では、従業員10人以下の企業の取引銀行数平均は 2.9行、従業員10人以上の場合は 3.1行である。

表 3 は、Ongena and Smith [2000b] に準じて、ヨーロッパ22カ国と日本全国47都道府県について、取引銀行数を単独行取引、2 行の取引、3 行から 7 行の取引、8 行以上に分類しての取引銀行数の構成比を示したものである。⁵ 2 行取引の構成比はヨーロッパ 18.8 %、日本 15.8 %とほぼ同程度であるが、1 行取引については、日本はヨーロッパの半分以下の 5.3 %である。逆に 3 行から 7 行の取引については、日本は 7 割を占めるが、ヨーロッパは半数弱である。

表 3 ヨーロッパと日本の取引銀行数の比較

	取引銀行数の構成比（%）			
	n=1	n=2	n=3 to 7	n>7
ヨーロッパ 22 カ国平均	14.5	18.8	47.0	19.7
日本全国平均	5.3	15.8	70.4	8.5

出所：Ongena and Smith [2000b] 及び筆者調査

⁵ 本稿で用いたデータの銀行取引名については、10行以上の表示は略されているため、全て 8 行以上の範疇に含めている。

したがって、Ongena and Smith[2000b]に示されるような取引銀行数の平均値は算出不能である。

取引銀行数とリレーションシップ・バンキング

表4 取引銀行数構成比（2000年）

	n=1	n=2	n=3	n=4	n=5	n=6	n=7	n=8	n=9	n=10
北海道	5.2%	17.1%	24.7%	19.1%	15.6%	8.2%	3.8%	2.5%	2.3%	1.5%
青森	4.5%	16.2%	26.6%	18.5%	10.7%	9.1%	6.2%	2.6%	2.3%	3.2%
岩手	4.7%	10.0%	18.7%	22.8%	17.8%	11.1%	6.1%	4.5%	1.9%	2.2%
宮城	12.7%	22.5%	23.3%	15.5%	9.7%	5.5%	5.2%	2.5%	2.2%	0.8%
秋田	6.7%	20.3%	28.3%	21.7%	10.7%	5.3%	3.7%	1.3%	0.7%	1.3%
山形	5.0%	19.2%	24.5%	17.8%	14.6%	10.5%	2.6%	3.2%	1.2%	1.5%
福島	5.7%	15.6%	22.0%	23.1%	16.4%	7.0%	4.6%	1.8%	2.1%	1.6%
茨城	9.3%	15.7%	23.8%	16.6%	14.2%	8.4%	3.9%	3.3%	3.0%	1.8%
栃木	6.2%	16.5%	19.6%	21.1%	13.7%	9.5%	5.7%	3.6%	2.6%	1.5%
群馬	7.8%	18.9%	20.7%	19.1%	13.3%	9.8%	3.1%	3.3%	1.3%	2.7%
埼玉	4.5%	13.1%	21.3%	21.0%	16.3%	8.2%	6.5%	3.8%	2.5%	2.8%
千葉	4.1%	15.0%	23.8%	19.2%	14.5%	8.8%	5.1%	3.9%	3.2%	2.5%
東京	2.7%	9.9%	15.5%	17.4%	17.5%	11.8%	9.8%	7.0%	3.4%	5.0%
神奈川	3.7%	10.5%	21.3%	19.2%	15.6%	10.4%	8.5%	3.9%	3.2%	3.7%
新潟	7.1%	18.4%	24.4%	20.5%	13.3%	7.3%	3.9%	2.6%	1.2%	1.3%
富山	6.1%	18.4%	22.0%	19.7%	12.9%	8.3%	7.4%	3.2%	0.6%	1.3%
石川	6.6%	20.5%	25.3%	17.6%	14.3%	6.4%	4.6%	2.3%	1.2%	1.4%
福井	10.1%	22.1%	29.4%	19.1%	11.0%	4.1%	2.4%	1.0%	0.6%	0.0%
山梨	8.3%	25.7%	26.1%	16.7%	11.2%	4.7%	2.9%	1.4%	1.4%	1.4%
長野	7.9%	25.1%	25.3%	19.4%	9.8%	6.1%	4.0%	0.7%	1.1%	0.8%
岐阜	4.3%	15.0%	21.6%	20.6%	12.5%	11.4%	5.5%	3.9%	2.2%	2.9%
静岡	3.8%	15.5%	25.2%	20.5%	15.1%	8.4%	4.4%	3.2%	1.6%	2.3%
愛知	4.0%	13.2%	19.3%	18.3%	13.2%	10.5%	7.4%	5.1%	2.8%	6.3%
三重	3.1%	13.3%	20.8%	22.9%	14.0%	10.6%	6.0%	4.6%	3.3%	1.3%
滋賀	8.0%	12.7%	21.5%	24.0%	17.8%	8.7%	4.7%	1.1%	1.1%	0.4%
京都	3.0%	14.6%	19.6%	22.3%	17.0%	9.4%	5.3%	3.5%	2.5%	2.7%
大阪	4.8%	12.6%	18.4%	18.8%	16.1%	11.1%	6.9%	5.1%	2.2%	4.0%
兵庫	2.8%	12.9%	20.0%	18.9%	16.4%	11.3%	7.2%	4.5%	2.4%	3.6%
奈良	7.4%	16.0%	25.2%	26.7%	10.7%	5.6%	3.6%	1.8%	1.5%	1.5%
和歌山	4.6%	19.1%	24.6%	22.3%	16.3%	5.7%	4.9%	1.4%	0.9%	0.3%
鳥取	1.9%	11.9%	21.4%	28.3%	16.4%	7.5%	5.0%	5.0%	1.3%	1.3%
島根	1.3%	13.9%	25.3%	20.3%	17.1%	8.2%	3.2%	7.6%	2.5%	0.6%
岡山	3.5%	15.6%	21.1%	18.5%	14.9%	10.8%	5.2%	3.6%	2.3%	4.4%
広島	3.4%	14.4%	18.8%	22.0%	15.3%	9.0%	6.2%	4.6%	2.4%	4.0%
山口	7.1%	19.5%	20.9%	23.6%	9.9%	9.8%	4.6%	2.1%	1.8%	0.7%
徳島	8.8%	18.6%	25.8%	20.3%	12.5%	6.8%	4.7%	0.7%	1.4%	0.3%
香川	6.5%	16.6%	21.3%	18.1%	12.8%	7.9%	7.7%	3.4%	3.9%	1.8%
愛媛	7.8%	21.6%	25.7%	18.4%	10.4%	5.9%	4.5%	2.4%	1.6%	1.6%
高知	6.9%	19.0%	24.6%	23.0%	9.7%	8.1%	1.6%	3.6%	1.2%	2.4%
福岡	3.6%	12.6%	21.8%	19.4%	15.7%	10.2%	6.6%	3.5%	2.9%	3.7%
佐賀	8.4%	16.4%	23.1%	15.5%	15.5%	9.2%	5.0%	4.2%	0.8%	1.7%
長崎	8.2%	18.8%	14.0%	20.0%	16.1%	8.2%	7.4%	2.9%	2.1%	2.3%
熊本	7.6%	15.2%	23.6%	15.2%	15.5%	7.9%	4.5%	4.2%	3.0%	3.0%
大分	5.2%	16.3%	20.5%	21.5%	14.2%	9.0%	4.5%	3.5%	2.1%	3.1%
宮崎	5.5%	20.3%	23.6%	20.3%	7.7%	8.2%	4.9%	3.3%	2.2%	3.8%
鹿児島	6.2%	17.5%	28.4%	16.0%	11.3%	6.9%	3.6%	2.2%	3.3%	4.7%
沖縄	18.2%	35.4%	22.2%	14.6%	3.0%	2.5%	1.0%	0.5%	1.0%	1.5%
全国平均	5.3%	15.8%	21.8%	19.7%	14.3%	8.9%	5.7%	3.5%	2.2%	2.7%

表 4 は、47都道県別に取引銀行数の構成比について示したものである。

1 行取引は全国平均では 5.3 % であるが、県別に見ると、沖縄 18.2 %、宮城 12.7 %、福井 10.1 % で、この 3 県は 10 % を超えている。また、島根 1.3 %、鳥取 1.9 % という 1 行取引の割合が大変少ない県もある。低金利上位 3 県、高金利上位 3 県を比較してみよう。

1 行取引、2 行取引の割合は各々、低金利県よりも高金利県の方が高い。1 行、2 行取引両者を合計した割合は低金利県の愛知では 17.2 %、京都 17.6 %、岐阜 19.3 % で低金利県 3 県の平均は 18.03 % である。これに対して、高金利県の宮崎は 25.8 %、高知 25.9 %、青森 20.7 % で高金利 3 県の平均は 24.13 % である。高金利県の方が、低金利県よりも取引銀行の数が少ない傾向にあることがわかる。

4 . リレーションシップの数とメインバンク固定率

本節ではリレーションシップの数とリレーションシップの duration について考えてみよう。リレーションシップの数は取引銀行の数で示し、duration の指標として1990年から2000年までの10年間のメインバンク固定率を用いることにする。リレーションシップ数別のメインバンク固定率は表 5 に示される。

取引銀行数とリレーションシップ・バンキング

表5 取引銀行数別メインバンク固定率（1990 - 2000 年）

	n=1	n=2	n=3	n=4	n=5	n=6	n=7	n=8	n=9	n=10
北海道	86.5%	76.6%	76.5%	71.2%	70.5%	67.1%	73.7%	76.0%	43.5%	66.7%
青森	100.0%	94.0%	86.6%	82.5%	81.8%	92.9%	84.2%	75.0%	85.7%	60.0%
岩手	88.2%	91.7%	80.6%	86.6%	84.4%	87.5%	72.7%	75.0%	71.4%	75.0%
宮城	87.5%	85.2%	81.6%	82.7%	65.6%	80.0%	84.8%	68.8%	85.7%	100.0%
秋田	100.0%	95.1%	90.6%	90.8%	87.5%	81.3%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%
山形	94.1%	97.0%	88.1%	86.9%	88.0%	86.1%	88.9%	81.8%	75.0%	40.0%
福島	94.3%	90.0%	86.2%	80.5%	79.5%	83.8%	88.0%	54.5%	90.9%	90.0%
茨城	96.8%	90.4%	79.7%	80.0%	78.7%	82.1%	76.9%	90.9%	80.0%	83.3%
栃木	91.7%	89.1%	84.2%	80.5%	84.9%	78.4%	90.9%	85.7%	90.0%	83.3%
群馬	97.7%	90.4%	86.0%	86.7%	89.0%	75.9%	70.6%	72.2%	85.7%	93.3%
埼玉	87.8%	86.0%	80.6%	81.6%	84.7%	78.7%	85.9%	78.0%	77.8%	90.3%
千葉	91.3%	90.6%	83.7%	80.7%	74.4%	74.0%	75.9%	81.8%	61.1%	64.3%
東京	92.5%	85.3%	76.9%	79.3%	77.1%	78.0%	78.6%	70.0%	83.6%	75.0%
神奈川	83.8%	89.4%	77.4%	77.5%	78.1%	71.8%	75.3%	69.2%	65.6%	81.1%
新潟	96.0%	93.3%	89.1%	90.3%	81.6%	90.9%	90.2%	96.3%	100.0%	100.0%
富山	96.9%	88.7%	87.1%	83.7%	89.7%	95.5%	82.1%	76.5%	100.0%	85.7%
石川	94.1%	92.5%	83.2%	89.0%	90.5%	84.8%	100.0%	83.3%	66.7%	85.7%
福井	98.0%	89.9%	82.8%	85.1%	75.9%	80.0%	83.3%	100.0%	66.7%	
山梨	100.0%	91.5%	81.9%	93.5%	58.1%	92.3%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%
長野	93.7%	89.7%	89.0%	82.6%	87.8%	75.4%	87.5%	71.4%	90.9%	87.5%
岐阜	90.9%	90.4%	92.1%	83.4%	87.4%	83.9%	83.3%	90.0%	88.2%	63.6%
静岡	92.2%	87.4%	84.6%	82.8%	80.2%	68.1%	83.1%	86.0%	66.7%	67.7%
愛知	97.8%	89.9%	83.9%	81.6%	78.5%	79.7%	88.0%	75.9%	87.1%	83.1%
三重	100.0%	89.1%	85.9%	86.2%	92.5%	78.4%	67.9%	68.2%	93.8%	83.3%
滋賀	95.2%	96.9%	83.1%	84.4%	83.7%	91.7%	92.3%	66.7%	66.7%	50.0%
京都	93.3%	85.4%	80.4%	80.9%	79.2%	83.9%	88.5%	88.6%	84.0%	74.1%
大阪	95.7%	86.3%	75.8%	77.4%	78.6%	77.3%	70.6%	72.0%	77.3%	70.0%
兵庫	98.1%	88.6%	84.0%	79.3%	73.8%	76.3%	77.3%	67.5%	72.7%	87.9%
奈良	100.0%	87.0%	85.9%	87.8%	75.0%	89.5%	100.0%	66.7%	100.0%	80.0%
和歌山	93.8%	73.1%	79.1%	83.3%	75.4%	75.0%	58.8%	60.0%	33.3%	100.0%
鳥取	100.0%	89.5%	91.2%	88.9%	84.6%	91.7%	87.5%	62.5%	100.0%	100.0%
島根	100.0%	95.5%	92.5%	96.9%	92.6%	92.3%	91.7%	80.0%	75.0%	100.0%
岡山	100.0%	90.5%	84.7%	76.8%	74.8%	76.3%	92.3%	74.1%	82.4%	69.7%
広島	97.8%	85.3%	84.6%	82.0%	81.7%	78.2%	75.3%	90.0%	87.1%	78.8%
山口	95.0%	87.3%	90.7%	78.2%	76.8%	80.0%	84.6%	83.3%	100.0%	75.0%
徳島	100.0%	87.3%	89.5%	90.0%	86.5%	85.0%	71.4%	100.0%	100.0%	100.0%
香川	97.0%	85.7%	87.0%	82.6%	81.5%	70.0%	87.2%	76.5%	75.0%	66.7%
愛媛	100.0%	89.5%	82.4%	87.7%	85.0%	76.5%	80.8%	100.0%	88.9%	77.8%
高知	94.1%	85.1%	82.0%	87.7%	91.7%	100.0%	75.0%	66.7%	100.0%	100.0%
福岡	96.2%	84.2%	76.5%	76.8%	74.0%	73.6%	78.9%	78.4%	71.4%	83.3%
佐賀	95.0%	84.6%	81.8%	81.1%	91.9%	90.9%	83.3%	90.0%	100.0%	100.0%
長崎	97.5%	95.6%	85.3%	84.5%	84.6%	82.5%	80.6%	85.7%	100.0%	90.9%
熊本	92.0%	86.0%	84.6%	74.0%	82.4%	76.9%	73.3%	85.7%	60.0%	90.0%
大分	100.0%	97.9%	91.5%	93.5%	85.4%	84.6%	76.9%	90.0%	66.7%	77.8%
宮崎	100.0%	94.6%	81.4%	73.0%	85.7%	86.7%	88.9%	83.3%	75.0%	71.4%
鹿児島	100.0%	85.4%	73.1%	70.5%	80.6%	84.2%	90.0%	83.3%	88.9%	92.3%
沖縄	91.7%	92.9%	90.9%	75.9%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
全国平均	95.4%	89.1%	84.2%	82.9%	81.6%	82.3%	82.8%	78.8%	82.1%	82.5%

このうち、 $n=1$ すなわち、単独行取引の場合のメインバンク固定率は95.4%とかなり高く、しかもメインバンク固定率100%、すなわちメインバンクを全く変更することのない県は以下の13県にもとぼる。青森、秋田、山梨、三重、奈良、鳥取、島根、岡山、徳島、愛媛、大分、宮崎、鹿児島である。このうち宮崎・青森は高金利県上位3県の2県である。表5に示されるように取引銀行数が2行から5行までメインバンク固定率が100%という県は存在しない。取引銀行数が6行の時、メインバンク固定率100%の県は2県、7行の時は4県、8行の時は5県であり、1行取引の時、いかにメインバンク固定率が高いかわかる。取引銀行の数が2行の場合のメインバンク固定率は89.1%、8行の場合は78.8%であり、リレーションシップの数が少ないほどメインバンク固定率が高いことがわかる。

Ongena and Smith[1998]では、単独行取引よりも複数銀行取引の場合の方が、リレーションシップの期間が短くなることを示しているが、これは本分析と整合的である。

5．リレーションシップの数と貸出金利との関係

複数の銀行取引におけるリレーションシップが貸出のオペラビリティや貸出条件に与える影響の研究については相反する見解がある。

Petersen and Rajan [1994]は複数行と取引のある企業は単独銀行との取引企業に比べて、金利が高くなりがちで、借入制約に陥りやすいとしている。

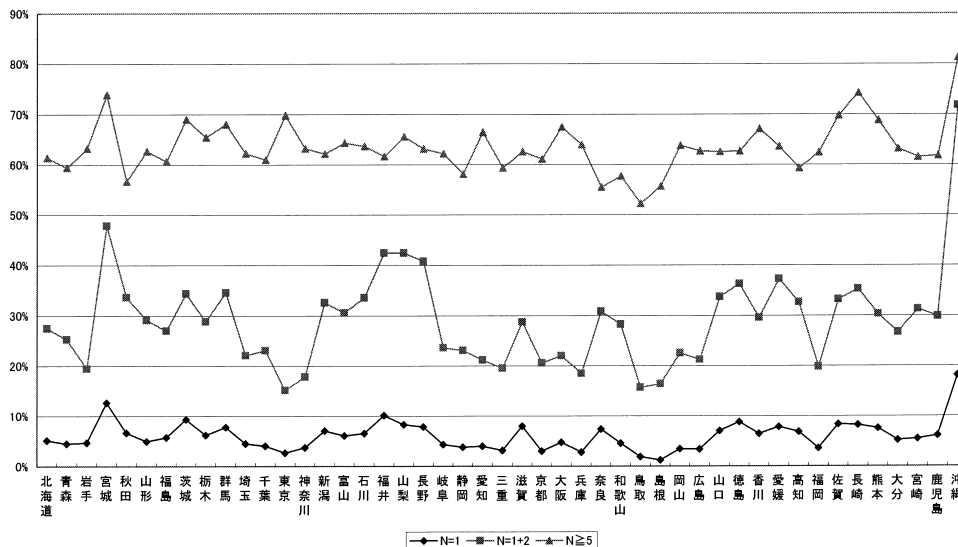
金融環境実態調査(2002年11月)においては、取引銀行数が多いほど、貸出金利が高水準となっている。しかし、メインバンクが融資に積極的な企業に絞り、金利と取引銀行の関係を見ても、取引銀行が多くなるにつれて金利が低下していくことが示されている。

本節では、リレーションシップの数と貸出金利の関係を見てみよう。まず低金利上位3県と高金利上位3県を比較してみる。1行取引と2行取引の合計の構成比は愛知17.2%、京都17.6%、岐阜19.3%で低金利3県の平均は18.03%である。これに対して、宮崎25.8%、高知25.9%、青森20.7%で、高金利3県の平均は24.13%である。高金利県の方が、低金利県よりも取引銀行の数が少ない傾向にあることがわかる。

さらにKano and Tsutsui [2003]で用いた貸出金利を用いて全国47府県の貸出金利の低い順に順位をつけ、リレーションシップの数との関係を見ることにする。図1は取引銀行数の都道府県別構成割合について、1行、1行取引と2行取引の合計、5行以上の取引について図で示したものである。

取引銀行数とリレーションシップ・バンキング

図1 取引銀行数都道府県別構成割合（2000年）



これらの構成比と貸出金利の順位について各々、スピアマンの順位相関係数を求め有意な相関があるか否かを検証してみよう。一行取引の構成比と貸出金利の順位には 0.3861 で 1 % 水準で有意な正の相関が見られる。1 行取引と 2 行取引の合計の構成比と貸出金利と貸出金利の順位には 0.4075 で 1 % 水準で正の有意な相関が見られる。5 行以上取引の構成比と貸出金利の順位には -0.3782 で 5 % 水準で有意な負の相関が見られる。

このことから、取引銀行の数が少ない地域ほど貸出金利が高い地域と言える。すなわち、少数の銀行とリレーションシップが深まることが、借り手にとって、金利面からは必ずしも良いとは限らないことになる。リレーションの数が少ない地域はメインバンク固定率が高くなり、銀行が情報を独占している可能性⁶があり、ホールド・アップ問題が懸念される。

6. むすびにかえて

非上場企業の取引銀行数で単独行取引の数の割合は全国平均では 5.3 % であり、ヨーロッパの平均よりも少ない。県別には沖縄、宮城、福井は 1 行取引の割合は高く、鳥取、島根は低い。

リレーションシップの数とメインバンク固定率については、単独行取引の場合がもっともメインバンク固定率が高い。

⁶ Farinha and Santos[2002]では企業が取引銀行数の決定要因について単独行取引で銀行が情報を独占するのを回避するためや、企業の経営内容が悪化し、融資増加を回避するために取引銀行の数が増加するとしている。

リレーションシップの数と貸出金利については、取引銀行数が少ない方が貸出金利が高く、取引銀行数が多い方が貸出金利が低いという傾向がある。

リレーションシップの数が少ないとメインバンク固定率も高く、貸出金利も高くなる傾向があるといえ、ホールド・アップ問題の存在が示唆される。

今後、地域の構造とあわせてリレーションシップ・バンキングの benefit と cost 更に精緻な分析を行うことが課題として残されている。

<参考文献>

- Angelini , P. , Di Salvo , R. and Ferri , G.[1998]. " Availability and cost for small businesses: Customer relationships and credit cooperatives. " *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.925-54.
- Berger , A. and Udell , G.[1995]. " Relationship lending and lines of credit in small firm finance. " *Journal of Business* , vol.68 , pp.351-82.
- Berger , A. and Udell , G.[1998]. " The economics of small business finance: The roles of private equity and debt markets in the financial growth cycle. " *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.613-73.
- Berger , A. and Udell , G.[2001]. " Small Business Credit Availability and Relationship Lending: The Importance of Bank Organisational Structure. " *FRB Finance and Economics Discussion Series* , 2001-36.
- Berlin , M. and Mester , L.[1998] " On the profitability and cost of relationship lending. " *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.873-97.
- Blackwell ,D.W. ,Winters ,D.B.[1997]. " Banking Relationships and the Effect of Monitoring on loan pricing. " *Journal of Financial Research* , Vol.20 , pp.275-89.
- Boot , A.W.A.[2000]. " Relationship banking: What do we know? " *Journal of Financial Intermediation* , Vol.9 , No.1 , pp.7-25.
- Cole , R. [1998]. " The importance of relationships to the availability of credit. " *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.959-77.
- Degryse , H. and Van Cayseele , P. [2000]. " Relationship Lending within a Bank-Based System: Evidence from European Small Business Data." *Journal of Financial Intermediation* , Vol.9 , No.1 , pp.90-109.
- DeYoung ,R. ,Goldberg ,L and White ,L. [1999]. " Youth ,adolescence ,and maturity at banks: Credit availability to small business in era of banking consolidation. " *Journal of Banking and Finance* , vol.23 , pp.463-92.

- Greenbaum , S. , Kantas , G. and Venezia , I.[1989]. “ Equilibrium loan pricing under the bank-client relationship. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.13 , pp.221-35.
- Elsas ,R. and Krahnen ,J.[1998].“ Is relationship lending special? Evidence from credit-file data in Germany. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.1283-1316.
- Farinha , L.A. and Santos , J.A.C.[2002] “ Switching from Single to Mutiple Bank Lending Relationship:Determinants and Implication ,” *Journal of Financial Intermediation* , vol.11 , pp.124-151
- Hancock ,D. and Wilcox ,J.[1998].“ The credit crunch and the availability of credit to small business. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.983-1014.
- Harhoff , D. and Koerting , T.[1998]. “ Lending relationships in Germany: Empirical results from survey data. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.1317-54.
- Hodgman , D.R.[1963]. *Commercial Bank Loan and Investment Policy*. Bureau of Economic and Business Research , University of Illinois , Urban-Champaign.
- Horiuchi , T.[1994]. “ The Effect of Firm Status on Banking Relationships and Loan Syndication. In Aoki ,M.and Patrick ,H. ,eds. , *The Japanese Main Bank System* , pp.258-94 , Oxford , Oxford University Press.
- (白鳥正喜監訳[1996] 『日本のメインバンク・システム』 東洋経済新報社)
- Horiuchi , T. , Packer , F. and Fukuda , S.[1988]. “ What Role Has the Main Bank Played in Japan? ” *Journal of Japanese and International Economies* , vol.2 , pp.159-80.
- Houston , J. and James , C. [1996]. “ Bank Information Monopolies and the Mix of Private and Public Debt claims. ” *Journal of Finance* , vol.51 , pp.1863-1889.
- Jayaratne , J. and Wolken , J.[1999]. “ How important are small banks to small business lending? New evidence from a survey to small business. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.23 , pp.427-58.
- Kano , M. and Tsutsui , Y.[2003] “ Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets ,” *Regional Science and Urban Economics* , vol.33 , No.2 , pp.157-74
- Ongena ,S. and Smith ,D.C.[2000a].“ Bank relationships: A Review ,” In Patrick T. Harker and Stavros A. Zenios , eds. , *Performance of Financial Institutions* , Cambridge University Press , Cambridge , U.K.
- Ongena ,S. and Smith ,D.C.[2000b].“ What Determines the Number of Bank Relationships? Cross-Country Evidence ,” *Journal of Financial Intermediation* , vol.9 , pp.26-56.
- Peek ,J. Rosengren ,E.[1998].“ Bank consolidation and small business lending: It's not just bank size that matters. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.799-820.
- Petersen , M. and Rajan , R.[1994]. “ The benefit of Lending relationships: Evidence from small business data. ” *Journal of Finance* , vol.49 , pp.3-37.
- Petersen , M. and Rajan , R.[1995]. “ The effect of credit market competition on lending relationships. ” *Quartely Journal of Economics* , vol.110 , pp.407-43.

- Sharpe , S.A.[1990]. “ Asymmetric information , bank lending and implicit contracts: A stylized model of customer relationships , ” *Jouranal of Finance* , vol.45 , pp.1069-87
- Strahan P. and Weston J.[1998].“ Small business lending and the changing structure of the banking industry. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.22 , pp.821-45.
- Thakor , A. and Udell , G.[1987]. “ An economic rationale for the pricing structure of bank loan commitments. ” *Journal of Banking and Finance* , vol.11 , pp.271-89.
- Thakor , A.[2000]. “ Editorial Overview: Relationship Banking. ” *Journal of Financial Intermediation* , vol.9 , pp.3-5.
- Wood , J.H.[1975]. *Commercial Bank Loan and Investment Behavior*. Wiley , New York.
- 廣住亮[2003].「中小企業金融とリレーションシップバンキング」『信金中金月報』第2巻、第10号、pp.2-22.
- 堀江康熙「企業の取引銀行数の決定要因」『経済学研究』（九州大学）第70巻、第4・5号、pp.287-309.
- 加納正二[2003].「京都のメインバンク関係1980-2000年」湯野勉編『京都の地域金融』所収、pp.109-140、日本評論社
- 加納正二[2004].「リレーションシップ・バンキングが貸出金利に与える影響」『国際公共政策研究』（大阪大学）第8巻、第2号、pp.33-46
- 内田聡[2004].「アメリカにおける銀行の統廃合と新設 ～リレーションシップ・バンキングの動態～」2004年春季金融学会報告